

# サタデープログラム<sup>36th</sup> ニュース

講座番号 10 第3部 (14:00~15:30)

## 「戦後日本」と「私たちの未来」

～戦争と平和を考える～



### 田原総一郎 (ジャーナリスト)

1934年、滋賀県生まれ。60年、早稲田大学卒業後、岩波映画製作所に入社。64年、東京12チャンネル(現テレビ東京)に開局とともに入社。ディレクターとして、主にドキュメンタリー番組を出がけた。77年にフリーに。政治、ビジネス、科学技術と幅広い執筆活動が続けるが、次第に政治関係へと活動のスタンスを移し、テレビ朝日系『朝まで生テレビ!』『サンデープロジェクト』で司会を務める。タブー視されてきた社会問題にあえて踏み込み、各界の論客らと激論を交わすその姿勢はテレビジャーナリズムの新しい地平を拓いた。98年、戦後の放送ジャーナリスト1人を選ぶ城戸又一賞を受賞。早稲田大学特命教授を歴任する(2017年3月まで)。

85歳となった今も『朝まで生テレビ!』、『激論!クロスファイア』の司会をはじめ、テレビ・ラジオに多数出演している。

## 田原総一郎の原点—「疑うこと」の大切さ

田原さんは小学校の教育を戦時下の日本で受けました。そこでは、当時日本がしていた戦争はアジアの国々を解放するための「聖戦」であり、指導者や軍人たちを「英雄」としてあがめるように教えられてきました。その影響もあり、当時の田原さんは「海軍に入って、お国のために立派に死ぬこと」が夢の軍国少年でした。

小学5年生の夏、日本が敗戦したことを知った田原さんは絶望しました。ところが、その日の夜、街に明かりがともさているのを見て、「ああ、戦争が終わったんだ」と初めて実感し、絶望感が解放感に変わっていったそうです。(戦時中は夜間空襲の目標にならないように灯火管制が行われていました)

夏休みが終わり、学校に行くと田原さんは大きな衝撃を受けました。先生たちのいうことが180度変わっていたのです。夏休み前まで戦争を賛美していた先生たちは皆、2学期になって「あの戦争は間違った戦争だ」と言うようになりました。そして、それは先生ばかりではなく、ラジオも新聞も同じでした。このとき、田原さんは、偉い人の言うことやラジオ・新聞をいっさい信じてはいけないと思い、自分で確かめることの重要性を感じました。

## 「おかしい！」と言いつけて

こうした戦争を通じた経験は、田原さんのジャーナリストとしての原点となりました。

いったんは岩波映画製作所や東京 12 チャンネルに就職した田原さんでしたが、日本の社会や政治に対して、様々な問題意識を持つようになり、1977 年、東京 12 チャンネルを退社しフリージャーナリストになります。

同調圧力が強い日本社会において、「おかしい！」と思ったことをとことん追求し、相手が誰であろうとも、ジャーナリストとしてフェアに接する田原さんのスタイルは現在までぶれることなく貫き通されています。ジャーナリストは権力ウォッチャーであるべきだという自信の信念に従い、メディアからの権力監視を続けてこられました。インタビュー中、ことあるごとに、「言論の自由」の大切さを訴えておられたこともとても印象的でした。

## 戦後 75 年の今、「戦争」と「平和」を考える

今、世界では、ナショナリズムが再び高まりを見せており、大戦後、各国の間で共有されてきた「国際協調」の価値観が揺らぎつつあります。

日本でも、安全保障の議論が活発化する中、私たちにとって戦争はより現実的な問題となっています。

一方で、私たちは戦争を知る人が身近にいないこともあり、「戦争」や「平和」について考える機会はありません。



当日は、田原さんによる「桜を見る会」や「野党の今後」などの現在の日本の政治の話はもちろん、田原さんの経験や戦争の話をもとに「戦争と平和」についても言及し、「私たちの未来」について受講者の皆さんとともに考えていきます。

政治の知識は必要ありません。どなたでも大歓迎。「戦争」とはどのようなものなのか。「平和」であるためには何が必要なのか。歴史を通じて、「私たちの未来」を田原総一郎さんとともに考えていきましょう。ここでしか聞けない 90

# 分間の「昼ナマ」！お見逃しなく！！

担当 高校2年 草川(文責) 江口